

ブラジルでは昨今の政治不安・景気低迷により、盗難発生件数が依然として増加の一途を辿っています。今号では、ブラジルにおける貨物盗難の発生傾向と物流への影響についてお届けいたします。

### 1. ブラジルにおける盗難のリスクトレンド

ブラジルでの盗難は、リオデジャネイロ・サンパウロ二大都市に集中して発生しており、両都市における盗難発生件数の合計はブラジル全土の盗難発生件数のおよそ 87%を占めています。件数ベースでは、リオデジャネイロで 2,427 件、サンパウロで 2,623 件(2017年7月-9月の3か月間)となっており、1日に約 30 件もの盗難が発生している計算になります。盗難発生件数は数年前から増加の一途を辿っており、対前年比では約 15%、5年前と比較すると86%もの上昇がみられます。また、特にリオデジャネイロにおいては爆発的に盗難件数が増加しており、2011年から2016年の5年間で盗難発生件数は220%増、2016年の年間被害総額は\$619,000,000にも上っています。



盗難多発エリア-リオ・サンパウロ等の都市部

(写真: Google Map)

治安当局によると、ブラジルにおける盗難傾向はここ数年で著しく変化しています。過去数年は転売すると高値が付く家電・タイヤなどが主なターゲットでしたが、近年は食品・飲料や雑貨などが盗難貨物のおよそ50%以上を占めており、比較的安価かつ容易に転売・消費できるものがメインターゲットとなっています。また、盗難された貨物は現地警察も立ち入ることが困難な貧民街に流入し消費されるため、回収も厳しい状況です。

### 2. 物流への影響

ブラジルでは、ドライバーを武器等で脅迫し、指定の場所まで運ばせて貨物を奪うハイジャックが最も一般的な盗難手口です。現地運送会社では対策としてセキュリティ部門を設置し、ドライバーの選抜・育成等に当たっているものの、いまだ大きな成果は得られていない状態です。また、こうした盗難対策費用が10~20%程のコスト増を招き、運送会社の運賃値上げにつながっています。貨物盗難被害が深刻なリオデジャネイロでは、運送会社各社がリオデジャネイロ宛の配送を拒否するケースも見られており、サプライチェーン断絶による物不足が懸念されています。

一方、2017年7月頃から、軍隊・公安部隊・警察等の国家機関が一丸となり盗難防止のために活動を続けており、ハイウェイ出口や市街地の入口にセキュリティゲートを設置するなどしてハイジャック防止に向けた取り組みを行っています。こうした取り組みの結果、都市部のセキュリティが強化され盗難件数の増加に歯止めをかけている一方、市街地に隣接した地域での盗難件数が増加しており、盗難件数自体の減少には至っていません。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

[http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine\\_site/index2.html](http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html)